

第1回 美しい九州づくり懇談会 議事概要

1. 日 時：平成17年2月22日 10:00～12:00
2. 場 所：博多都ホテル 孔雀の間
3. 出席者：(座長) 島谷 (委員) 伊東、包清、深堀、松岡、宮本、米田
(敬称略)：(整備局) 岡山、田中
4. 内容
 - 1) 九州地方整備局長あいさつ
 - 2) 出席者紹介
 - 3) 座長あいさつ
 - 4) 設立趣旨説明
 - 5) 検討の進め方と九州らしい景観像をどのようにとらえていくべきかの意見交換

5. 議事概要

1) 議事概要

① 景観の定義について

- ・ この懇談会で取り上げる「景観」というタームの定義について、各委員の方々の考え方を聞かせて頂きたい
- ・ 視覚的な条件だけで景観をとりあげるのではなく、「人間の五感全部や物を思い浮かべる知覚機構のすべてを通じてとらえることのできる環境の様相」を景観と考えている。
- ・ 景観の言葉も何十年とそれぞれ思いで皆使ってきたので、その総和で景観をとらえていけば良いのではないか。
- ・ 観光の立場からは、北海道、沖縄に比べ九州はイメージしにくい。
- ・ 目で翻訳した居心地が景観ではないか。居心地と言う言葉で五感の部分を表せるのでは。
- ・ 今までは、景観は作る側のロジックでやってきた。景観が何かということよりも、景観が社会や人に何をもたらすのかが議論の焦点では。
- ・ 皆さんの意見をまとめると、“環境の眺め”ぐらいの理解でよいのではないか。環境の側を重要視する立場と眺める人間の側を重要視する立場があるが、まずは議論に入っていくこととして、また、時々この議論をしていき、最後にはまとめたい。

② 検討の進め方と九州らしい景観像をどのようにとらえていくべきかについて

- ・ 大枠から入って、各論に入る方式もあるが、景観法ができ各自治体が条例をつくっていかうとしている現状の中で、細かいところからどうフォローアップして全体を見るのかという思考も必要で、実際どのようにしていくのが重要ではないか。
- ・ 今回は、両方からの検討が必要ではないか。「これぞ九州」というメッセージも打ち出す必要もあると思う。北部九州という単位でもよい。また、一方で現場において課題となっていることも検討していく必要があると思う。
- ・ 九州らしさについて、明文化が欲しいということはわかる。その議論は現在各方面で議論されている。しかし、これからは、地域でやっていかなければいけない時代にはいり、それをどのように動かしていき、どのような仕組みをつくり、どのような方向に持って行くのかということを睨んだ総論にしていく必要があるのでは。
- ・ 九州スケールでとらえることの中に、国交省の直轄事業での景観整備と、一方で、ガイドラ

インを示し地方自治体と手を組んで取り組んでいくことがあり、その仕分けが必要ではないか。九州として取り組まなければならない課題を洗いだして、事業ベースの区分に括りなおして議論する方法もあるのではないか。

- ・ 枕詞として九州らしい景観づくりに向けた自治体の取り組みの支援とあるが、あまり九州らしさに拘らずに議論できればと考える。それぞれの地域ごとにやるべきことは変わってくる。最終的に九州の全体像が出てくればそれにこしたことはないが。
- ・ 居なくなると生態系が変わってしまうといわれているキーストーンという概念に相当する景観、文化がそれぞれの地域であるのではと思っている。それを洗い出すことが、各論から総論に繋がることになるのでは。
- ・ 九州は多様であることから出発して、その中から集約出来るものが最後に出てくれば良いのではないか。多様性をいかに見つけて育てていくかが九州らしさを作り出していくのではないか。また、景観は作られていくものであるから、その仕組みとして、地域らしさの発見、発掘とそれを育てることも重要である。
- ・ はっきりとした個性のあるところを羅列しても九州が見えてくる訳ではない。都市部、都市郊外部、小さい町と周辺の田園風景等に分け、エリアの空間構成として考えたときどうか。むしろ日常的なところに問題が一杯あり、それを掘り起こして議論すると方向性がでてくるのではないか。
- ・ 「九州らしさ」を考えるとき、国、地方と住民との関係における九州独自の取り組みや仕組みが九州流ということも考えられる。
- ・ 地域の個性が重要ということでは共通している。その他、都市、都市郊外、農村等の空間のカテゴリズも重要ではないか、九州の場合は港町とかもある。

この他に、自然の軸を入れた方が良いのではないか。九州は特殊な生き物が多く、海岸にカメがたくさんあがっていたが、その海岸が消失してきている。川にノリがあるのは四万十川と九州の川だけである。カササギは天然記念物であるが、九州では普通の風景としてある状況。

また、今回の検討フローに課題の抽出がない。そのため、事務局と委員の先生とで課題の積み上げが必要。

- ・ 九州は海岸線が長いが、自然海岸は南部九州に集中して、北部九州は全滅である。一方、移動手段を使えば、1時間半から2時間で国立公園の特別地域に行ける。都市域でもメダカ、ゲンゴロウがいる。100万人をこえるまち中でも絶滅危惧種がいるという都市の自然的な特徴をもつ。それらを景観のなかにどう活かすか難しい。
- ・ 自然景観には守るといふことと、自然再生・修復の考え方がある。守ることは第一として、自然再生として手を加えることはデリケートである。二つの視点で人間が自然にどうかかわっていかは重要である。
- ・ 九州全体の歴史はとらえにくい、古い歴史を持つ九州を社会資本とどう結びつけていくか。
- ・ 湯布院の場合でも、人が多く訪れるところは、屋外広告物を含め目が行き届いているが、農村部の生産の場ではあまり良い風景とはなっていない。生業のところにも議論が入っていかないと深まらないのではないか。
- ・ 中世以前のは余り残っていない。近世の始めに地割りが用意され、近世の後期になって美しい景観を形成する。実際は、集落など明治、大正になって景観が完成してくる。ところがこの時代の情報が発掘されていない。身近なところに宝物がたくさんあるため、これから発掘していくことを踏まえ、現状の突出したところだけでとらえるのは危険である。
- ・ 九州の景観をとらえるフレームとして河川流域があるのではないか。1級河川、2級河川と小河川が混在し、流れ込む海もいろいろである。自然と人の結びつきも流域毎に違っていたのではないか。1級、2級河川は、上流・中流・下流に文化圏があり縦にむすびついて海の文化に関係している。流域のフレームに都市域、農村域を位置付けていけば、流域単位ごとの景観

像として方向が考え易いのではないか。

- ・併せて、幕末の藩領は大半が川や流域で分かれている。その上で地域特性をとらえていくことが必要。
- ・生活といった人が生きている視点からのもの見方と、自然・風土から見えてくるものと両方があるのかなと思う。高速道路から見える植木のビニールハウスも風景になりつつあるのではないか。これも九州らしい景観の一つとして位置づけをしてあげる必要もあるのではないか。
- ・川でくぐるのは難しいのではと思う。例えば、国道3号線を移動するなかで、風景がどう変わっていくのかという視点もある。
- ・今後の進め方として、各委員がお持ちの問題意識をヒアリングするなどして課題を抽出し、その後、それを基に議論していきたい。また、全体の風景や九州とはなにかという点は、もう少し資料を充実させていくなかで少しずつ共有していくこととしたい。

③ アウトプットについて

- ・何かしゃれたものが出来るとよいが、他の整備局等で検討した成果等があれば示して欲しい。
- ・テキストも重要であるが、DVD等視覚で伝えるなど他と違う企画やネットでインタラクティブなものにする等が考えられる。
- ・子ども達にどうアプローチするかの視点では、動画が使えると面白いのではないか。
- ・事務所の協力で、美しいと思う風景の写真をとったり、委員の先生からとってきてほしい写真をとったり、発掘もかねて写真集を作ったらよいのでは。
- ・子供向けと地方自治体向けで担当者がワークショップや条例をつくるときに市民と一緒に見るものが良い。地方自治体向けはネットで事例にアクセスできるもの。子供向けは社会科教育で配ってもらえるもの。また、子供から意見を募れる短いDVDなどが良いのでは。
- ・懇談会の提言がどこで使われるのか、どう使われていくのかを明確にしておく必要がある。例えば、景観づくりの取り組みの方策のなかに、CDを作る、写真集をつくるかを具体的取り組みとして書き込むのか、懇談会の成果として出すのかを事前に整理しておく必要がある。
- ・アウトプットの議論はもう一回必要。次回、冒頭に議論したいと思います。

以上